

フィットテスト研究会

第2回 感染&産業部会合同企画WEBセミナー



新型コロナウイルス対策 ～ウィズコロナ（共存）の時代に～

2020年10月31日（土）

第一部：1400-1510

（10分休憩）

第二部：1520-1630



F T 研究会Webセミナーにご参加くださりありがとうございます。

【お願い事項】

- ▶ 研究会として2回目のWebセミナーです。接続トラブルがないことを祈りますが、予定した時間配分通りに進まないことがあります。ご理解くださいますようお願いいたします。
- ▶ 参加者のマイク・カメラは全員オフでお願いします。発言するときだけオンにしてください。
- ▶ 本日は97名のご参加を得ております。一人ひとりに発言を求めることは時間的に難しいので、チャットでの質問を受付ます。どうぞ宜しくお願い致します。座長の采配で対応とさせていただきます。
- ▶ セミナー時間内のトイレ、飲食はご自由でお願いします。一時的な入退室は接続のまままでのご退席をお願いします。
- ▶ チャット内にセミナー参加アンケートがあります。ぜひ、ご協力をお願いします。

【参加アンケート】

https://docs.google.com/forms/d/1WM-XiCPH_LrGLzMTPLFsKnZLP1iz_wQb4TrucB2vL98/edit



第一部：トピック

「ウイズコロナ（共存）の時代への一歩」

座長：吉川 徹（FT研究会産業部会代表）

- (1) 特別講演：黒須 一見（国立感染症研究所）
COVID-19における呼吸器保護具の管理
（保管、適正な着脱、使用に関する注意点、再使用）
- (2) 特別講演：草場 恒樹（株式会社モレーンコーポレーション）
PPEが枯渇した原因と対策



休 憩 (10分間)

第二部： パネルディスカッション

事例紹介から学ぶ長引く可能性のある COVID-19への対策 Part 2



座長：長瀬 仁（FT研究会感染部会事務局）

- (1) 丸茂 陽子（防衛医科大学校病院 看護部）
今こそ 立ち向かえるチームになろう
～自部署とCOVID-19対応病棟に勤務してみえてきた課題 あるべき姿とは～
- (2) 横井 博子（公益社団法人日本海員掖済会名古屋掖済会病院 感染対策室）
当院におけるCOVID-19疑い患者の救急搬送受け入れ状況と課題
- (3) 木村 将和（中国電力株式会社 中電病院 感染対策室）
民間病院におけるCOVID-19流行状況に応じた対応計画の立案，
およびN95マスクを含むPPEの運用の難しさ



1) 今こそ 立ち向かえるチームになろう

～自部署とCOVID-19対応病棟に勤務してみえてきた課題
あるべき姿とは～

演者：丸茂 陽子

(防衛医科大学学校病院 看護部)

当施設は、県内の中等症～重症のCOVID-19陽性患者を受け入れる役割を担い、2月よりCOVID-19陽性患者ならびに疑い患者の受け入れている。今回、現在まで私が自部署とCOVID-19対応病棟のスタッフとして勤務して、感じてきたこと踏まえ、みえてきた課題を報告する。



(2) 当院におけるCOVID-19疑い患者の救急搬送受け入れ状況と課題

演者：横井 博子

(公益社団法人海員掖済会名古屋液盛会病院 感染対策室)

新興感染症対策は、『魑魅魍魎』と申しましうか目に見えない敵に対し、私たち医療者でさえも恐怖に打ち勝つには時間がかかる。当院の通常診療は、救急医療を軸に展開しているため緊急で受診した患者が新型コロナウイルスに感染している可能性がある。通常診療の継続するには職員が感染しないことが大前提であり、職員を守るためには個人防護具の正しい使用や十分な準備が必要である。

当院では新型コロナ診療チームなるものではなく、第1波から救命救急センター（初療室・救命救急室）と呼吸器科が、任務にあたっている。その中から、疑い患者の救急搬送の受け入れ状況と課題について考える。



(3) 民間病院におけるCOVID-19流行状況に応じた対応計画の立案、 およびN95マスクを含むPPEの運用の難しさ

演者：木村 将和

(中国電力株式会社中電病院 感染対策室)

広島県ではCOVID-19の「感染状況レベル」を独自に定めている。当院も県の感染状況レベルに応じた診療体制、感染対策、職員の行動自粛要請等COVID-19診療継続計画を作成し対応している。また、診療に必要なPPEは未だに正常化されず正規採用品は不足している現状である。ガウンやN95マスクは初めて手にする製品を教育もできないまま実践で使用しており、使い分けや運用面で苦慮している。このような現状を踏まえ報告する。

質疑応答

